

習熟度試験【論述】 解答のヒント

- 【設問】から、読む。
➤どのような設問の内容になっているのかを確認しましょう。
- **注意事項**: 解答は全て解答用紙の行内に記入。
➤行内の記入以外は、採点されないため、必ず行内に収めましょう。
- **設問1** 相談者がこの面談で相談したい(訴えている問題)は何か記述せよ。(10点)
➤全体の逐語をしっかりと読み込み、主訴は何かを考えて、行内に要約したものを記入しましょう。
- **設問2** キャリアコンサルタントとしてあなたが考える、相談者の「問題」は何か根拠を含め具体的に記述せよ。(20点)
➤逐語を読み込み、CLの発言から、根拠を探します。
例)
「今の会社のことしか知らないの、自分が他の会社で通用するかというのが不安です。」(根拠)の発言から、自身が、今までの経験の中で具体的に何ができるか、今後どのように活かせるのか、わかっていないため、自己理解不足と思われる。(問題)
- 考え方
ここは、「見立て」が問われている設問ですが、その見立ては、いつも「自己理解不足」とは限りません。設問をよく読み込んで、適切な見立てを考えてください。【テキストの p219 を参照】
- **設問3** 設問2で答えた内容を踏まえ、今後あなたがこのケースを担当するとしたら、どのようにキャリアコンサルティングを進めていくか記述せよ。(20点)
➤設問2であなたが答えた解答から、CLに対して、どのように気づいていただき、目標に向かうために、相談者が自ら取り組み意思決定できるように支援するのか、全体のアプローチを考えながら根拠を持って具体的な内容を書きましょう。

●考え方

システムティックアプローチの中では「問題把握」の部分が、この論述では重要となります。



【p220 を参照】

「問題把握」プロセスには、「クライアント(CL)の問題の見立て」とそれを「検証する質問」という流れがあります。設問2の解答として、ここでは「自己理解不足」という見立てをしたわけですから、それを検証できる、あるいは自己理解が進むような働きかけが「今までの経験や能力について聞く」ことや「ジョブカードへの記入」といったこととなります。

そうしたやりとりを通じて、クライアントが得た気づき(この場合であれば新たな自己理解)を元にして、クライアントが自ら意思決定できるように支援していきます。

例) ※赤字の部分は、事例によって合わせます。

クライアントの**介護と仕事で混乱している気持ち**に寄り添い、受容共感関係構築を深め、**仕事で悩みつつもお父様の介護を一生懸命していること**を承認する。(～労う。)自己理解を深めるために今までの**営業事務**の経験や能力についてお聞きしたことや、さらに職務の棚卸しやジョブカードを記入していただくことで自己分析をしていただくなどを促す。~~~~~

これらを行い今後、**介護と仕事をどう両立するか**、そのために何をすべきか CL が自律的に考え、やるべきことの意味決定ができるよう働きかける。(〇〇のために△△が取り組めるように支援する)